

教職大学院ニュースレター

大学院生の声を届けたい!! 第7号発刊

7

Spring 2022

創価大学教職大学院では、創立者からいただいた3指針を胸に、仲間とともに日々学びあっています。

主なカリキュラムのうち、以下の二つの

「実地研究」…国内外の学校現場で研究テーマをもとに学ぶ。

「実習研究」…教育実習とは異なり、60日間かけて学校現場に

入り、理論と実践の往還（おうかん）を体現する。

その他、教職大学院での学びや、大学院ならではの施設を紹介していきたいと思います！

【創価大学 教職大学院指針】

- 一、子どもの幸福を目指す 慈愛の教育者たれ！
- 一、生命の尊厳を護り抜く 正義の教育者たれ！
- 一、平和の世界を創造し行く 英知の教育者たれ！

創価大学教職大学院に興味がある方は
右のQRコードからホームページへどうぞ。



実地研究

創価大学教職大学院では、富山、奈良、中国、シンガポールの中から選択し、現場の教育法・学習法を学ぶ実地研究があります。2021年度では、国内は現地での学校参観、国外はオンライン交流をさせていただきました。それぞれの学校での学びの一つを紹介します。

● 富山市立堀川小

堀川小学校は、子ども1人ひとりの見方や考え、背景を大切に、それぞれの課題解決に向けた個の追究を大事にしている学校です。子ども達の、自ら課題を見つけ計画を立てて行動する力が優れており、率直にすばらしいと感じました。子ども同士が互いに影響し合いながら自己を深めていく様子がよくわかり、堀川小のやり方をロールモデルとして、今後、自分が授業をつくっていく際に生かしていきたいと思います。



● 奈良女子大学附属小

奈良女附小では、子どもの独自学習と相互学習が大切にされています。子ども1人ひとりが毎時間、自分なりのめあてを持ち、その上で学級で学び合い、最後に自分の学びを振り返ります。

教員が決めた「めあて」ではなく、子どもが自分自身でめあてをたてることに大きな違いを感じました。自分のめあてに向かい、学びに向かう姿は主体的な学びを体現したような授業でした。言葉だけでは伝わらないと思うので、ぜひ1回観に行ってください。



● 中国（オンライン）

中国の先生方とのオンライン交流を通して、コンテンツベースだった教育から、コンピテンシーベースの教育に変遷していく様子等、子どもの豊かな学びのために向かっている方向が、日本と中国では同じだと感じました。また、中国の先生方から、学びを子どもの生活にむすびつけようという強い思いを感じました。これは学歴社会を払拭し、真に「子どもの幸福のため」の教育を追求しようとする中国の先生方の願いだと思っています。



● シンガポール（オンライン）

シンガポールでは、近年「有能なものの共同体」という考えから、人間性の涵養（かんよう）等を含む全人的教育観に基づいた教育に重点が置かれています。「教育における価値の変化がある（人間主義from/and成果主義）とすればその背景には何かあるのか」を最大のテーマに現地の生徒、先生方との交流を進めてきました。日本の教育システムとは少し異なり、キャリアステップが用意されていることが分かりました。



木のくま 子どもの村

～きのくに子どもの村学園を訪問して～

教職大学院では、書籍で学ぶだけに留まらず、実際に現場に赴きより深く学ぶことができる授業があります。

その一つが和歌山県にある「きのくに子どもの村学園」という学校と連携した授業です。きのくに子どもの村ではデューイとニールの教育理念を基盤とする民主主義を基に、3つの基本方針を特色とした授業を展開していました。

◎自己決定の原則

学習計画から行事に至るまで、子どもと大人が話し合っ決めて決めています。また、公立学校で言う年齢別学級編成ではなく、自分でクラスを決められる。様々な場面でミーティングを実施し、どこまでも自己決定の原則を貫いている。

◎個性化の原則

個性や個人差を尊重することを貫いている。自分がやりたい幅広い学習や活動を自分で選ぶことができる。

◎体験学習の原則

プロジェクトと呼ばれる体験活動が時間割の大半を占めており、子どもたちは、自分でやってみたいプロジェクトに所属できる。知識の記憶より、実際に作ったり調べたりする活動が重視される。



私たちは、この学校の全校集会に参加したり、基礎学習の時間を参観させていただいたりすることで、「子どもと大人が対等な立場で共に創っていく、子どもたちが育っている」ということを強く実感し深く感動しました。

施設 紹介



○ラウンジ

みんなの憩いの場です。お昼休みや空きコマになると、ぞろぞろとみんなが集まってきて、コーヒーを飲みながら、おしゃべりしています。とにかく、窓からの眺めが良いのが自慢です。また、教育関連の書籍が充実していて、それらを読むこともできます。



○自習室

1人ひとりに自分の机があり、落ち着いて勉強できます。机はスペースが広く、とても勉強しやすいです。また、各部屋は少人数で使用でき、みんなでホワイトボードを使って勉強することもあります。

○教材研究室

実習で授業をする際に使用するプリントや教材を作成するための機械が揃っています。ビデオカメラも完備されているので、自分の授業を撮影して後から振り返ったり、研究のデータとして使用したりすることもできます。



実習研究60日間インタビュー！



2月に実習研究を終えた2人にインタビューしてみました

長期実習なので学校行事に複数参加できます。学校運営や学級運営を間近で見ることができました。実際に働く前に現場を知ることができるのは貴重な経験でした。自身の研究についても、実践を通して児童の実態も含めた学びがありました！

半年間なので自分自身の課題と向き合いながら実習できました。授業のつながりや主発問までの流れがぶつ切りになってしまうことが、自分自身の課題でした。4週間実習と違って授業をする機会が何度もあるので、その中で改善していくことができました。この経験をこれからの教職大学院での学びに活かしていきたいと思います！

大 学 院 で の 学 び

大学院に入る前と後で何が変わりましたか？

「教師になることが楽しみになったこと」と、「生涯、共に歩み続ける教員仲間ができたこと」です。

なぜそのように変わりましたか？



入学前、理工学部出身だった私は心のどこかで教育現場への不安があり、教師として「自分に何ができるのか」と悩んでいました。



創価大学教職大学院では「子どもの幸福のため」をどこまでも追求していきます。牧口先生が仰る教育の最大の目的です。慈悲深い教授陣、学友に恵まれ、全力で学び抜いた2年間が人生の宝物であり、「誇り高き青春の劇」でありました。教職大学院の授業は、院生が積極的に参加する主体的な学びです。校種や立場を超え、教育について皆で真剣に語り合い、学んで参りました。

さらに、実習先の先生方と深い縁を築くことができ、学校でもたくさん声をかけていただき一緒に学んでいます。大変ありがたい環境です。



入学前の不安は吹き飛び、教壇に立つことがすごく楽しみになりました。私のまわりには教育に情熱を持ち、学び続ける友友が沢山います。教職大学院を通して縁した全ての方々に感謝の思いでいっぱいです。子どもの幸福のために尽くし抜く教師となり、創価教育の体現者として実証を示して参ります。

質問

○プチインタビュー○ 大学院の学びで良かったことはありますか？

教育行政・学校経営でも活躍してこれ、卓越した経営感覚を持たれた担当教授からの日常的なご指導が印象的でこれまでの教育観が大きく変わったと実感しています。また、充実したゲストティーチャーによる授業が非常に有意義でした。

大学院では、様々な年齢の人がいて皆生き生きしているのがいいですね。コロナでリモート授業もありましたが、対面の方が仲良くなれたり、グループワークを行うことができるのでやっぱり対面がいいですね。

2021年度は昨年度と同様にコロナ禍での学びとなりました。しかし、近隣の小中学校に参観や実践をさせていただいたり、大学院の授業が対面に緩和されたり、これまでの学びに近い形で学ぶことができました。実習先の先生方や大学及び大学院の教授、事務員の皆様方のおかげで私たちがよりよい経験を得たことに感謝致します。学生のそれぞれの学びや思いを文面に残したい、他の学生に少しでも知ってほしいという旨で本紙の作成に入りました。少しでも気になる方がいましたら、お近くの大学院生や先生方にお話を聴いてみてください。（編集長）

【編集 紙面製作】

- 編集長○ 岩間愛智
- 編集委員○ 堤 陽子 田川 莉 井出隆章 是川賢一 橋本華奈